

第3回 氷見市総合計画審議会第3部会 会議録		
日 時	令和3年10月22日（金） 10時00分から11時30分まで	
場 所	氷見市役所 201会議室	
出席者	委 員	伊藤宣良（代理：南）、金嶋修、川田文人、草島すなお、中村剛、寺下利宏、林美樹、松原勝久（出席8名）（欠席3名：佐伯三美子、西山知克、森本太郎）
	市関係職員等	東軒企画政策部長、事務局（地方創生推進課）
次 第	1 開 会 2 企画政策部長あいさつ 3 議事 （1）第9次氷見市総合計画基本計画体系図（案）について （2）第9次氷見市総合計画基本計画（素案）について （3）意見交換について 4 閉 会	
資 料	【説明資料】 資料1 氷見市総合計画審議会部会名簿 資料2 第4回氷見市総合計画審議会における意見に対する対応について 資料3 第9次氷見市総合計画基本計画の重点施策におけるポイントについて 【参考資料】 参考資料1 第4回氷見市総合計画審議会会議録 参考資料2 第9次氷見市総合計画策定のための市民意識調査の結果について	

1 開 会

（司会）

定刻となったので、今から、第3回氷見市総合計画審議会第3部会を開催する。

2 企画政策部長あいさつ

（企画政策部長）

皆様方には、ご多用の中、お忙しい中、第3回氷見市総合計画審議会第3部会にご出席頂き、誠に感謝申し上げます。また、日頃から市政の発展のため格段のご支援を頂き、感謝申し上げます。

さて、昨年より第9次氷見市総合計画については、皆様方に基本構想から議論して頂きまして、本年6月に基本構想がようやく策定され、今回基本計画（素案）が完成した。

また、先月9月29日には、第4回氷見市総合計画審議会が開催され、皆様方に第9次氷見市総合計画基本計画（素案）について、議論して頂いた。

本日の第3部会につきましては、前回の審議会で議論されなかったところ、特に基本計画をより良いものとするために、それぞれの専門分野の知見を生かして議論頂きたいと考えている。

皆様におかれましては、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げて、挨拶とさせていただきます。

本日は、よろしくお願い申し上げます。

（資料確認）

資料について説明・確認

3 委員の紹介

出席者、委員代理出席者、欠席者の紹介

4 議事

（1）第9次氷見市総合計画基本計画体系図（案）について（2）第9次氷見市総合計画基本計画（素案）について

（事務局）

議事進行は、部会長にお願いする。

（部会長）

それでは、議題1「第9次氷見市総合計画基本計画体系図（案）について」、議題2「第9次氷見市総合計画基本計画（素案）について」から進めてまいりたいと思います。まずは、資料について事務局から一括して説明をお願いします。

（事務局）

「資料2 第4回氷見市総合計画審議会における意見に対する対応について」

「資料3 第9次氷見市総合計画基本計画の重点施策におけるポイントについて」

を説明

（部会長）

事務局に再度確認ですが、今日の部会では第3部会として、特に「働きたいまち」を中心に議論を進めていくことでよろしいか。

(事務局)

「働きたいまち」を中心に議論、意見を頂き、その後、全体の中でのことについて意見を頂ければと思っている。

(部会長)

それでは、今のご説明に対して、ご意見、質問等がございましたらお願いしたいと思う。

国の「まち・ひと・しごと創生基本方針」に合わせて、「ヒューマン」「デジタル」「グリーン」をポイントとして話し合っていく感じか。

(事務局)

1つ飛び出たものとして「ヒューマン」「デジタル」「グリーン」の項目で作成していきたいと思っている。どれに力を入れていくのかが見えにくいところもあるので、掲げた。

(委員)

以前からの問題で、企業誘致の強化がありましたが、なぜ、これをしなければならないのかということが示されていない。今の氷見市の経済構造として必要な部分で、いわゆる地域内の資本で回っている事業者と外からお金が入ってくる事業者の大きく2つに分かれる。

外からお金が入ってくる事業者が、今の全体の割合から見ると、少ないのではないかと思う。そこを強化する必要があると思う。地域内の資本については、いろいろな形で進められているが、大きな部分がないとそれは成り立たなくなる。難しいことであるが、この視点は忘れてはならないと思う。それがないと地域内資本で動いている事業者も成り立たなくなる。氷見市の構造的な問題として、以前から外に働きに出ることも含めて言われていることだと思う。その辺りをどうすれば良いのかと思う。

(事務局)

若い人の働く場の定着も含めて企業の取り組み等の必要性は感じている。

(委員)

そのバランスが崩れると人もパイも小さくなり、それが住みたいまちにもつながってくることになる。

ただ、1つの考え方としては、企業誘致も1つの方法であるが、観光産業も明らかにそれに当てはまるので、そこを進めていくのは1つの方法である。どの程度増やしていくかということも難しいとは思いますが、明らかにパイとして足りないと感じているので、あわせた戦略を構築できないかと思う。

(事務局)

工場を誘致するという方法もあるし、テレワークやワーケーション等、そういうところでの取り組み、小さい取り組みですがそういったところから思っている。

(委員)

氷見市のあり方として、このように自然環境がしっかりしている中で、どういう風にお金が入ってくるのかという仕組み、稼げる仕組みをどのようにつくっていくかということだと思う。

煙が上がる工場が良いのかというとそうではないと思う。この視点は、絶対に忘れて欲しくないと思う。総合計画にどのように反映するのか難しい気はするが。

(部会長)

具体的に企業誘致をどういう風に強化していくかということか。

現実には、どこの自治体もやっている。

(委員)

その点で言えば氷見市の強みは観光になってくるのかと思う。ただ、それにしてももっとパイを大きくしないと既存事業者が成り立っていかない。これは非常に幅広いので、難しい。

(事務局)

企業団地の造成等も検討させて頂いている。環境づくりを整える必要もあるのではないかと庁内で議論が出ている。

(委員)

その時に今の問題点を踏まえると、どうしたらできるのかという事を考えるしかないのではないか。

(事務局)

取り組んでいけるよう研究していく。

(部会長)

観光に関する事で、ご意見あるか。

(委員)

「働きたいまち」のところに関しては、観光振興に関して全て網羅されていると思う。これに関しては、創業や事業継承、起業も含めてチャンスがあるのは観光だと思う。考えをま

とめますので、まとまったら発言する。

(部会長)

他にご意見あるか。農業が注目を浴びているが、いかがか。

(委員)

この文言に入れれば良いと感じていることで、地産地消という考えがあるが、これとは逆の地消地産がある。学校給食で必要な量を確保するために誰かつくって欲しいという要望が出る。そここのところが、抜けているように思う。

福祉のところ、介護職員の現状から言うと各事業者に任せているが、そういう状況ではいけないと思う。行政が入って、外国人労働者を投入する等が必要である。これを度外視して氷見市の活力はあり得ない。行政からの支援が必要だと思う。

エコファーマーを推奨していた時に実施していた氷見市の「環境にやさしい農業」の制度がなくなった。今、世の中で SDGs が叫ばれている中で、環境に配慮した農業について触れて欲しい。

(事務局)

地産地消について、学校給食であれば、つくったものは必ず消費される消費先が決まっていることになるので、確実に収入が見込めるので、そのマッチングがうまくいけば、担い手等が出てくるという視点だと思う。学校給食の地元食材の利用も増えてくるので、検討していく。

介護人材の確保では、介護人材の育成という視点が抜けているのではないかという意見があった。昨日の第1部会でも同様な意見が出た。若い方が介護に興味を持っていただける取り組みをし、介護業界に就職して頂けるような取り組みをしっかりとっていく必要があるというご意見も頂いたので、それについては記載する方向で考えていく。

SDGs の絡みで、環境にやさしい農畜産物の生産の取り組みであるが、富山県で「エコファーマー」の認定や環境に配慮した取り組みの制度もあるので、そういったものと連携していきたい。氷見市の取り組みは一旦終了しているの、富山県の既存の制度を活用しながら、取り組んでいく方法もあると思っている。

(部会長)

重点施策として、「ヒューマン」「デジタル」「グリーン」が入ってきた訳であるが、農林水産物のスマート農業も言われているが、体系の中には農林水産業のDXについて、氷見市の農業において、スマート農業はどれくらいの見通し、可能性があるか。

(委員)

ドローンは、そこそこ使用されている。19機ぐらい使われている。

林業においても今までは、木材の伐採の際に木を1本、1本測っていたが、それをレーザー一測量で分かるようになってきた。そういう面では格段にICT化が進んでいると思う。

基本計画の中には、いろいろ書かれていた。もう少し書き加えても良いかも知れないが、そこそこ書かれているかなと思う。

農業の振興のところで、(1)魅力ある農業生産基盤づくり(2)高技術な農産物の生産体制の構築となっているが、先般の審議会でもJAが売場所がないのではないかと言っていたし、この項目立ての農業生産基盤の確保が必要であるし、後は人づくりである。そこは持続可能な経営体の育成などとし、3つ目に高品質で売れる農畜産物の安定生産という3本立てにして組み立てた方が分かりやすいと思う。

KPIについてであるが、直接支払いの件があったが、例えば、環境保全型の農業の直接支払い交付の面積を基準にするとか、農地の集積率、スマート農業を活用する担い手の割合等そういうことを指標にしていけば良いと思う。

林業につきまして、ここに書いてある地場産木材の生産は、生産についてですよね。使われる指標がないから、使うための指標として、数年前には、国で公共建築物の木造化を推進する流れできていたが、今年の10月からそれが拡充して木造建築物そのものを増やしていく法律ができた。例えば、民間も含めて非住宅でもとあるから、例えば、指標の中に建築物の木造化、氷見市産を特化して出すのは難しいが、木造化ということについてはデータが出ているのではないかなと思うので、そういうことも指標に入れたらと思う。

先程、学校給食の話が出てきたが、南砺市では生産者団体を組織して、そこを通じて農産物を供給していくことをしている。学校側としては、窓口が1つであれば交渉しやすいし、また、団体の中で生産する生産物を割り振ったりできる。そのような生産者団体をつくって育成していくのも良いと思う。

企業誘致であるが、従来型の企業誘致というカテゴリではない方が良い。氷見市の赤毛で中国人がキウイをつくっており、試食させてもらったが、非常においしい。うちのセンターで市場のバイヤーに何人か来て頂き、試食してもらったが、かなり魅力的な商品であった。外から来られた方が氷見で起業する、それは農業も含めて、そういう体制というものを氷見市として支援していく、その中に企業誘致ということもあっても良いと思う。全ての産業において、推進していく視点で進めていけば良いと思う。

(部会長)

農業を含めて、氷見市の良さを出して、起業を進めていけばと思う。

(委員)

「働きたいまち」という点で、氷見市というのは森林面積も多く、ほぼ標高500m以下

で、林業可能地、面積が非常に多い。冬季間でも林業ができるという地域で、こういったところは富山県では氷見市が一番面積が多い。林業として働くには、氷見市が一番恵まれている。冬季は、南砺市から氷見市に仕事にくる。それだけ氷見市は仕事がやりやすい地域である。

(部会長)

日本の林業の場合は、北欧と違って傾斜地があつてなかなか機械や重機をいれるのが難しいと聞かすが、氷見市はその点はどうか。

(委員)

その点は、急傾斜地だとワイヤーを張ってすることが多い。氷見市は機械ですることが多い。

(部会長)

最近は枝を削ぐ作業から1台の機械で賄えている状態ですね。

(委員)

機械は3台ぐらいあり、富山県内では一番多いと思う。

戦後植えられた木が60年以上経っているので、使う時期にきている。循環させるため、切って使って植える等をしているので、その分野でも仕事があることになる。

(部会長)

脱炭素の面でも、樹齢が経ってくるとCO₂の吸収量が減ってきて、マイナスの効果が出てくる話もある。

(委員)

100年を超えると排出量の方が多いのではないかという意見もあるが、100年経っても木自身にはCO₂は吸収されている。排出については、よく分からない。

(部会長)

やはり循環させていかなければなりませんよね。

(委員)

そうである。そういう分野では、氷見市が一番伐採量が多い。そして、植樹もされている。

(委員)

SDGs の視点から言うと、建築物を建てるにしても木造の方が圧倒的にエネルギーの周期が少ない。木造は建っている間は、炭素を貯蔵しているので、そういう意味でも炭素の貯蔵に貢献している。

氷見市はSDGsに一生懸命取り組んでいるので、そういったところも協力できれば良い。

氷見市は木育も力を入れているが、その辺りの記載はあるか。木材利用のところで木育を入れるのもひとつだと思う。

(部会長)

他にご意見あるか。

(委員)

基本計画の65ページに「中心市街地における空き店舗・空き家への新規出店や居住を推進することで、まちなかの活力維持と活性化をはかります。」とあるが、これはずっと昔からある。行っていることと現在の様子が離れている感じがする。新しい居住者を呼び込んで、街中の空洞化を防ぐ作業をする時に園に家を建てる政策はやめたらと思う。街中の空き家の解体が進んでいて、街中にたくさんの空き地ができてきている。その理由は、街中に住んでいた人が、車社会に対応するために窪や柳田に家を建て、その結果、街中は空き家が増えてきている。

現在、窪、柳田と街中の土地の値段がほぼ同じになっているので、今であれば、街中に居住することを勧めることは可能だと思う。昔は、街中の土地の値段は、窪、柳田から比べて3倍、4倍の値段であったが、今は坪12万円ぐらいで変わらない。

今、空き家等の改装をして、街中に予算をつぎ込んで、街中に集中した居住区、昔みたいな商店街の発展という感じではないが、ただ、人がいなくなると商店街が発展しない。コンビニエンスストアでも言われているのが、交通量ではなくて近隣の住民の住んでいる数である。それが少ないところにはコンビニエンスストアは出店しない。交通量が多いところは、流行っているイメージがあるが、そうではない。居住が多いところが流行っている。

もうひとつの不安は、従来街中にあった八百屋等がどんどん無くなっていき、郊外にスーパーができて、これが街中の空洞化を一層招く要因になっている。実際、柳田で家を建てた方が街中に住むよりも生活がしやすい環境に変わってきている。

その中で、街中の空洞化の問題が気軽な形で、一行、二行で書いてあるが、この対策を深くしていかないと、解決しないと思う。

居住を促進するのではなく、推進するという風にした方が良いと思う。街中の空き家を改装して居住区をつくっていった方が良いのではないかということも耳にした。

今、街中の自治会の運営すら難しい状況で、ゴミ当番さえ誰がやるのか分からなくなるくらい過疎化が進んでいる中で、家をつくったり、駐車場の整備をしたりすることで街中に

人が呼び込める。最近も灘浦方面から幸町に引っ越してこられた方がいる。高齢化が進むと街中の方が、交通機関も充実していますので便利である。

そういう風に市外への流出を防いだり、街中に居住させたりできることで引っ越しできるようにすると良いと思うので、推進してほしい。

(部会長)

今のお話しは、富山市のコンパクトシティに関連するようなお話しであるが、中心市街地を重点的に再開発と言えば良いのか、そういった計画は今なされているのか。

(事務局)

街中は誘導地域としており、そこに移れば、空き店舗に店舗を出した場合でも優遇措置はある。

第2部会では、高齢者の交通機関の確保が難しいという問題が出ている。氷見市の高齢者の割合は35%以上になっているので、高齢者が中心市街地に住めば今ほど言われたように公共交通機関を使って生活できるような考えもできるので、今のご意見はとても良い参考となった。

病院や買い物に行くのに都合が悪い高齢者が多いのが実情である。そういったニーズにどう対応していくのかということで、第2部会ではそういった課題が挙げられた。

今言われたようにコンパクトシティを中心市街地の方に誘導できれば、このような問題は解決できるのではないかと思う。

(部会長)

その場合、富山市で問題になっているのは、中心地区には食料品店がない。その辺りも一緒に解決していかないといけない。

(委員)

車がないと買い物ができない。それから、具体的にはハッピータウンがなくなると相当の打撃がある。街中に唯一残された大きな商業施設なので、まとまっていることが大切。

移住、定住の問題で、空き家があるのだけれど貸してくれない、売買して欲しいという要望が多いが、転入される方は、初めは賃貸させて欲しいというニーズが多い。賃貸する物件が少ないということであるので、中心市街地で取りまとめて頂ければ非常に助かる。

自分自身も必要では無くなった物件を買って改装して貸したりしているが、改装にお金をかけるということ、いらなくなったものにお金をかけるということを取り払わなくてはならない。

あと、仏壇があるから、1ヵ月に1回お坊さんがお参りにいらっしゃるので、貸さずにいるという事も多い。

街中に家を持っていて郊外に出た人の物件を知っているが、車が1台しか停められない状況である。そこを車が数台停められるようにして貸すと、借りた人は長く借り続け、長く住んでいる。融雪があるし、用事はだいたい歩いて解決するし、ということで、便利だからである。アパートをどれにしようかと考える時があるが、それと同様に家を商品のように選んでもらうようにできないかと思う。その場合、エリアを決めて、今年度はこの地区に決めて5～6軒、家の（改装）商品をつくれれば良い。

そして、その家に入る場合は必ず町内に入ることにすると、街中の自治会も家賃下げる代わりに加盟してもらうということになると非常に自治会自身も喜ばれると思う。

（部会長）

中心市街地の観光客の回遊性を高めていく視点と考えながらやっていかなければならないと思う。

住宅も含めて若い人や企業のことも考えてやっていく必要がある。

（委員）

街中にコンビニエンスストアをつくって欲しいという要望が結構ある。街中は生活しにくくなっている。コンビニエンスストアの近くに住んでいる人の利便が非常に良い。金融機関、郵便局あらゆる機能が集中しているので、そこが解消できれば非常に良い。今、声が挙がっているのが、駅周辺に欲しいという要望である。

氷見市で一番要望があるのが、朝日丘地区である。朝日丘地区に学校が集中しており、学校が集中すると住む人が微妙に増える。そうすると生活利便施設を欲しがらる。学校を集めたことにより変わっていった感じである。

（部会長）

脱炭素化社会の推進という柱があるが、産業界として脱炭素化についてどう思われるか。

（委員）

企業としてはいろいろと考えている。素案の61ページにも書いてあるが、企業はピンとこないのではないかと思う。「グリーン」というところに当てはまることなので、行政が進んでやるのが今は大事だという思いでいる。この数年の間に相当進んだと思うので、この文言があつて良かったとなるかも知れないが、これは「グリーン」につながる話であるから、環境大臣の指導の下、明確に出すことによって事業者もついていき、脱炭素含めて取り組んでいくことになる。そういう構造的なことができないかと思う。

企業自身はSGDsのどれを目指しているかという点で、親会社が入ったらそこから聞かれる訳である。この辺りに当てはめてということを進めているところが多いのではないかと思う。具体的に動いているところ、氷見市内の中小企業では、なかなかそこまではいって

いないのが現状だと思う。ただ、流れとしては必ずきているし、頭の片隅にはある状況になっ
てきていると思う。

(事務局)

SDGs の未来都市には、富山県、富山市、南砺市が選定されている。氷見市もそういった
ものをできないかということを検討していく必要がある。ESG に絡んでくると思うので、
そのような考えで、氷見市独自のこういったことができるかということを検討していかな
ければならない。

(委員)

農業遺産を主体としてつながっていくもの、せつかく取ったのでそこを広げた形、氷見市
はこう風を目指しているという宣言が必要である。

(委員)

おっしゃる通りで、数年前に観光客にこの街は環境にやさしい街ですと言われたことが
ある。その時はピンとこなかったが、いつかは化石燃料を使っている街には観光客は来なく
なる。ヨーロッパからはそういうことをヒシヒシと感じている。そういうことが言われ始め
てあっという間にそういう傾向になってきたので、今、言われたように安全、安心そしてエ
コであるということを宣言しないと観光客が来てくれなくなると思う。

お客様の中には具体的にゼロエネルギーの宿に泊まりたい、化石燃料を使ったエネルギ
ーの宿には泊まりたくないと言われたりする。そのようなことを直接言われた時には結構
ショックで、氷見市にはそういったところがなかったのである。

そういったことから、私も家に太陽光を入れました。売電ではなくて地産地消という観点
で、自分の家のエネルギーを小風力であったり、太陽光であったりと適切に自分のところで
消費するのであれば、災害が起きて電気がこなくても自分のところだけは守れるので、自給
自足でつくってしまえば、どこかで災害があっても他で救済できたりできるので、そういう
意味での安全・安心もあるのかなと思っている。

「ヒューマン」「デジタル」「グリーン」ですが、「デジタル」が「地方創生に資するDX
の推進」だけになっているが、これだけだと市民がピンとこないと思う。命を守るデジタル、
医療関係もそうですし、5G はなぜ必要なのかという時に、例えばチップ系を入れた服等を
痴ほうの方に使用した時に、センチ単位でどこに居るか分かるようなのであれば、それも活
用できる訳です。そうしたら、「命を守るデジタルインフラ」等、そういったものを付ける
と必要だと思いついていかなければという思いになる。

観光についても、温泉郷は枝葉の部分だからメインのところには書けないのかも知れない
が、氷見市は温泉郷が武器であるから、PRをしたいのでどこかに入れて頂きたい。

観光の問い合わせも多種に及んでいて、最近ではコロナ禍なので、神社・仏閣の問い合わせ

が多い。氷見市にはたくさんの歴史ある神社・仏閣があるので、そこを巡る人がいるし、古墳を巡る人、撮り鉄もいる。我々が想像もつかないようなマニアックな方がいる。それはきっと都会にはない氷見市の魅力だと思う。

素案の 71 ページに「新たな魅力の発掘」のような文言を入れて頂けたらと思う。

観光地はどこに行っても 100 円バスがあつて、夜遅くまで飲んでいても帰れるので、それも含めて市民の足、観光のツールとして、コミュニティバスの充実が必要であるので、交通網の構築をお願いします。

(部会長)

脱炭素化の KPI は検討中ということか。

(事務局)

そうである。

(部会長)

エネルギーの地産地消、再生可能エネルギーはたくさんあるので、氷見市の場合どこを中心にしていけば良いか。

(事務局)

今は太陽光が中心に進めている。木材や下水道の汚泥の研究もしているが、どちらかという太陽光である。

(部会長)

太陽光はあまり多くなると景観を損なうことになりますね。氷見市らしく進めるにはどうしたらよいか。

(委員)

風見鶏のような小風力はどうか。安くてそんなに高くない。太陽光と両方使えるタイプもあり、出力が 300W ぐらいなので、照明とテレビぐらいは賄えると思う。エアコンはきついと思う。それぐらい使えたら、非常の時には良いですし、風見鶏の鶏の部分をブリに変えブリ見鶏にしてもらったら良い。発電量はないが、やっていますというパフォーマンスも必要だと思う。氷見市は「環境にやさしい」街のような感じとする場合は、ぜひ、ブリの小風力をつくったらと思う。既存のものであれば、3 万円台からある。海岸やキャンプ場にも自家発電できるように置いてある。灯油ではなくて、それでしている商品もたくさんある。あれを氷見市独自でしてしまえば南砺市よりパフォーマンスが良いと思う。

(委員)

街灯にも使えば、一番発信力がある。

(部会長)

だいぶ時間も迫ってきたが、いかがか。

(委員)

私は、このような会の経験があまり無くて、行政の知見もないものですから、適切な発言ができないかも知れないが、この計画は第9次という事であるが、1回5年間のスパンで行ってきているので、ということは45年間？40年間してきていることになるのか。

(事務局)

総合計画は10年間で作って、基本計画は5年、5年で作る。第8次までになりながら、80年間になる。

(委員)

80年間というと戦前からという事か。

(事務局)

最初の頃はスパンが短かったと思う。

(委員)

この第9次というのは、第8次の検証というか、それを踏まえて作成されているということですね。

総合計画がすごく多岐に渡っていて全て良いことが書いてあるが、どのように実行するのかと思う。リソースが限られているので、人材予算等諸々。いろいろな産業に渡っているので、各法律、国や県等が絡んですごく複雑だと思うが、その中でこれだけたくさんあると消化するのはさすがに難しいのではないかと感じている。例えば、何を実行して、何をしないのかという話しにはならないと思うが、もう少し優先順位を付けることが必要だと思う。私達民間企業の間から言うと、アクションプランがないとイメージが湧かなく、前に進められるのかと思う。

冒頭にいろいろなことをするには稼がなければならないとお話があったが、今の岸田総理大臣も成長と分配と言っている。成長しないと分配もできないし、お金も使えないのです。私も呉西の間ですから、稼げる街、住民税が上がる街にしなければならないので、その観点から言えば、リードしてくれる産業があれば、雇用がたくさんできて、住民税が入る、人口が維持できるといった施策をとらなければいけないと思うのですが、その中で、企業誘

致の強化となるのは具体的に何をするのか、半島振興法の PR ということも書いてあるが、ここに絞って言うと全国の半島地域全ての街で行っていると思うが、もう少し踏み込んで具体性があればと思う。予算や人の制約があることも承知しているが、そのように感じた。

その中で、今、工場を誘致できるかというなかなか難しいとすれば、デジタルの通信環境を良くして完全リモートできる地域をつくる等、稼ぐという観点で言えば、もう少し具体性があり、アクションプランがあり、ロードマップがあるといことを感じた。

(部会長)

アクションプランはこれからか。

(事務局)

そういったところはこれからとなっている。

(部会長)

氷見市らしさというのは、今の皆様の意見をお聞きしていると環境に「やさしい街ひみ」と言う事で、その中でどういう産業を目指していくのかという、何で稼いでいくかという事、「環境にやさしいひみ」は何で稼いでいくかという事をもっと前面に打ち出して氷見らしさというものを目指していけば、「住みたいまち」になるし、「働きたいまち」にもなっていくのではないかと思う。

今日は、皆様からいろいろ貴重なご意見を頂戴したので、事務局と相談しながら、私から会長にご報告させて頂きたいと思う。他の部会長と協議して、第9次氷見市総合計画基本計画案の作成に反映させて頂く。

以上で本日予定しておりました議事は終了する。委員の皆様には、貴重なご意見、議事進行にご協力頂き、ありがとうございました。

それでは、進行を事務局にお返すする。

5 閉会

(事務局)

部会長、ありがとうございました。

本日、1時間30分という限られた時間の中で、委員の皆様には十分なお意見等を発言できなかったこともあると思う。地方推進課は事務局であるので、この後、お気づきの点がありましたら、地方創生推進課までご連絡頂ければ幸いと考えている。

また、本日「第3部会」を開催した。一昨日の20日の日には、「第2部会」を開催し、昨日21日の日には「第1部会」を開催した。この3つの部会でそれぞれ出ました意見を来月の中旬に会長と部会長とで協議して頂き、基本計画案を取りまとめたいと思っている。

今回お示した素案には KPI の数値や目標数値は書いてない。そういったものも含めて次

回来年年明けの1月24日に総合計画審議会を開催したいと思っているが、その際に総合計画基本計画案として委員の皆様にお示ししたいと思っているので、よろしく願います。

総合計画審議会の開催案内については、追ってご連絡する。

以上をもちまして、第3回氷見市総合計画審議会第3部会を閉会する。

本日は、ありがとうございました。